

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年5月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1571100344		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	みつけケアセンターそよ風		
所在地	新潟県見附市本町4-2-25 (電話) 0258-61-3090		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	3月19日

【情報提供票より】(19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤 14人、非常勤 4人、常勤換算	16.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階	建ての	1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり	1,400 円	

(4) 利用者の概要 (19年 10月現在)

利用者人数	16名	男性 4名	女性 12名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	6名	要介護4	3名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 79.5歳	最低 63歳	最高 88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野医院・金子歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR見附駅から車で10分程の見附市内の中心地に位置し、通りから少し入った、古からの町並みと新しいアパートがある静かな住宅街にある。ホームの外観、建物のデザインには、周辺の町並みと違和感を感じられない。ホーム内のリビングにはソファやこたつが配置され、廊下奥にも椅子があり、ゆったりと過ごすことができる配慮がされている。食堂の食卓も利用者の体型に合わせた高さの物を使用し、利用者個々を尊重する意識を感じることができる。職員の言葉かけは、ゆったりと優しく、ホームのあたたかい雰囲気と利用者の穏やかな表情につながっている。
経営母体は、埼玉県に本社を置く株式会社であり、新潟県は北陸支社に属し、新潟、燕、三条、見附、上越に合わせて6ヶ所のサービス事業所を運営している。北陸支社長が今回の訪問調査に同席したが、支社長は、それぞれのサービス事業所の毎月の会議に出席し、それぞれのサービス事業所の人事、労務、運営状況等を把握している。他の事業所の情報を共有するなど、複数の事業所持つことを活かした運営を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題については、ほぼ全てにおいて改善されている。特に、「地域の人達との交流の促進」については、地域の公民館の講座に参加をしたり、ホームの行事を地域に発信したり、地域に住む職員のつながりで定期的ボランティアの開拓やボランティアとの交流を行ない、徐々に地域とのつながりを深めている。「食事を楽しむことの支援」では、一緒に食べる職員数は変わらないが、食事を楽しめるような会話や言葉かけをしたり、配膳や後片付けと一緒にこなうなどして、楽しい食事となるよう工夫している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員からのヒアリングでも、「評価は気づきに役立つ」という意識で取り組んでいることが確認できた。管理者、職員共に自己評価、外部評価の意義を理解し、日々の支援に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は定期的に開催され、記録も整備されている。会議では、ホームの取り組みの状況を説明し意見を求めている。ホームとしては、現在、運営推進会議の意義や有効性を問い、現状を踏まえ会議のあり方を再度検討していく予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族にアンケートをとり、家族の意見を反映して利用者の様子を記載した手紙の書式を変更するなど、家族の意見を実際の運営に反映するよう努めている。また、年1~2回開催される家族との交流会でもコミュニケーションを図ることで、家族が日常の訪問時に意見を言いやすい雰囲気につながっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に地域への散歩や買い物、地域の公民館の講座への参加している。また、地域住民と利用者が一緒にお茶を飲んだり、踊りや歌の地域のボランティアと交流を深めたり、地域の田んぼを利用して稲刈りをする等、利用者の日常生活に密着した地域との連携が行われている。防災面においても、全市対象の防災訓練に参加し、地域との防災上の連携を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、家族、地域と共に生きることを旨とする経営母体の理念を職員が理解し、さらにユニットごとのスローガンを職員が考え出し、日々の支援の中での実践を目指している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の全体会議で理念の理解と共有を図っている。また、理念を事務所内に掲示するとともに、リビングの掲示板に、利用者が墨書した各ユニットのスローガンを掲示し、日常的に確認できるようになっている。理念・スローガンを実践できるよう日々の支援に取り組んでいる。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	家族、自治会長、民生委員が出席する運営推進会議で理念を説明し、理解と浸透を図っている。また、家族に対しては、毎月発行されるユニット新聞を活用している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館のフラワーアレンジメント講座に参加している。また、ホームの行事への参加を地域に発信したり、地域の住民がホームへ来て利用者がいっしょにお茶を飲んだり、ホームで地域のボランティアを受け入れて一緒に踊りやおやつ作りをして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題について、職員の全体会議で改善策を検討し、実際に改善に取り組んでいる。また、評価は自らのサービスへの気づきに役立つことと認識し、管理者、職員共に評価の意義を理解してサービス評価に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで取り組んでいる状況を説明し、意見を求め、出された意見を運営に活かしている。支社長は、今後さらに会議を活かしていくために、運営推進会議の意義、地域への理解にどのようにつなげていくか等の会議のあり方を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が、市の職員も参加する月1回のケアマネージャーの会議に出席し、情報交換や連携を働かしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備するとともに、経営母体の研修プログラムとしても虐待防止が位置づけられている。また、日常的に、管理者、職員共に虐待防止を意識してケアにあたっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行するユニット新聞で、ホーム全体の様子や状況を家族に伝えている。また、担当職員が作成する手紙で、個々の利用者の様子を家族に伝えている。また、日常的に家族の訪問時に様子を話したり、状況を迅速に伝える必要がある時は随時連絡を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族に参加してもらい意見を求めたり、アンケートをとり家族の意見を運営に反映している。訪問時にも家族と話をしたり、年2回家族との交流会を開催し、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、リーダー・サブリーダー会議、全体会議と段階的に意見の表出、検討の機会がある。北陸支社長も全体会議に出席し、職員から直接的に話を聞いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット職員を固定して馴染みの関係で支援できるようにしている。退職等やむを得ない事情がある場合にユニット間の異動、同法人他ホーム間の異動があるが、新しい職員には、利用者とかかわる時間を多く持てるよう勤務体制に配慮し、早く馴染みの関係が作れるように努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	会社全体の共通マニュアルが整備され、見やすくファイリングされている。また、携帯していつでも確認できるように手帳も用意されており、理念から標準的な介護のマニュアルまで記載されている。入社時のオリエンテーションでマニュアルは周知している。また、ホームの状況に合わせて見直しも実施し、職員への周知も行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の研修と継続研修を年1回実施するほか、経営母体が主催する管理者研修・計画作成者研修・リーダー研修があり、参加後は研修報告を行ってホームの運営に反映させている。また、外部の研修にも参加しており、職員の立場や経験に応じた研修の場がある。パート職員もチームの一員として研修・会議に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内に同一法人のグループホームが複数あり、相互に交流している。他法人のホームとも交流できるよう働きかけを行なっている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的にリーダー、サブリーダーが他職員の話や悩みを聞くよう心がけ、管理者へ報告している。また、職場を離れて職員の親睦を深める機会も設定し、気分転換を図れるようにしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が事前訪問をし、家族から利用者の暮らしぶりなどについて情報を得て、ホームでの生活に早く馴染めるよう工夫している。また、事前にホームの見学にも来てもらい、雰囲気慣れてもらうように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備・後片付け、おやつ作り、裁縫、漬物作り、田・畑仕事等を共に行い、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時の話し合いや家族アンケートの実施、家族との交流会、運営推進会議への出席、家族と利用者とのドライブ等、様々な家族への働きかけを行い、家族と共に本人を支えていく関係がつかれるよう工夫をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者とのかかわりの中で、本人の言葉や行動、表情等から思いや希望を汲み取るよう努めている。また、家族からの情報をもとに把握している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者が入居前に事前訪問した際や、入居後の家族の訪問時等を利用して生活歴等を把握しているが、それが記録として明確になっていない部分もあり、職員が共通認識する手段としては十分ではない。		口頭だけではなく記録による情報共有も十分に行なうことで、利用者一人ひとりについてそれぞれの職員が持っている情報を確実に共有し、よりよいチームケアにつながることを期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当職員が中心となり作成し、職員全員で検討して、本人、家族の同意を得ている。モニタリングも職員全員で実施している。病院から退院される利用者については、必要に応じて、家族、主治医、看護師、グループホームの職員が集まり、今後のケアについて話し合いを行なっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。また、状態に変化があった時はその都度見直しを行っている。利用者個々の様子を記載した手紙を毎月家族に送っており、担当職員がそれを作成することも、利用者の1ヶ月の状況をモニタリングする機能をもっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診介助や地域の公民館での講座への参加、地域の田んぼを利用しての稲刈り、馴染みの美容院への外出等本人のニーズに合わせて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を継続し、かかりつけ医への受診介助も行なっている。協力医院が近所にあり、往診も可能である。また、近くに総合病院もあり、夜間救急時に対応してもらっている。入院の必要な場合も受け入れ可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化により、特別養護老人ホームや老人保健施設への住み替えを支援している。状態変化に応じて、その都度家族と話し合い、理解を得て対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事や歯磨き、服薬介助等において、職員の言葉かけは穏やかでさりげない。また、利用者のペースを大切にしており、プライバシーを損ねない対応がなされている。また、記録は事務所内に保管され、記録を書くときは、利用者に見られないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでコタツにあたってのんびりと過ごしたり、廊下奥の椅子に座り外を眺めたり、利用者のペースで過ごせるよう支援している。また、利用者の希望を聞きながら入浴や買い物、外食等の支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、本社の栄養士が作成したメニューを基本とし、ユニットごとに畑で取れた自家製野菜も活用するなど工夫している。配膳や食事、後片付けも利用者と一緒にいき、利用者への言葉かけにも食事を楽しめるものにするような配慮がある。また、定期的に寿司の日があり、いっしょに寿司を握りながら楽しむ食事となっている。食卓も使いやすいよう、利用者に合わせて高さになっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助が必要な利用者についてパターンや習慣を把握し、トイレ誘導を行ない、トイレでの自立した排泄を支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりに、回数や時間の希望を尊重し支援している。また、仲の良い利用者同士と一緒に入浴できるなど、より気持ちよく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	踊りや歌のボランティアを受け入れて楽しみごとの支援をしている。また、着付け、生け花、農作業、大工、習字等、利用者の経験や生活歴から把握した特技や能力を発揮できる活動を支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、散歩、入居前の自宅への外出、馴染みの美容院への外出等、本人の希望にそって支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが整備され、入社時の研修で活用されている。日常的なミーティング等でも自分たちの支援を振り返り、身体拘束をしない支援の継続につなげている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関は鍵をかけることはなく、自由に出入りできる状況である。また、玄関にはセンサーが設置され、チャイムの音で出入りを把握して、安全面にも配慮している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、原因と対策を検討し職員間で共有を図っている。また、家族へも速やかに連絡している。毎月のユニット会議で事故について再検討し、再発防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	消防署と連携し、年1回救命講習を実施し、急変時や事故発生時に備えている。また、すぐに行動できるよう、緊急時のマニュアルは、誰が見てもわかりやすく整備されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	夜間の火災想定を含む年2回の避難訓練を消防署と連携し実施している。消防署とのホットラインも整備されている。年1回の全市を対象とした防災訓練にも参加し、地域との防災上の連携を図っている。また、電磁調理器を使用し火災のリスクを軽減している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は本社の栄養士が作成しており、栄養バランスを考えたメニューとなっている。利用者一人ひとりの食事量・水分量は、チェック・記録して職員間で情報を共有している。利用者の状態に応じて食事形態や量も配慮されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファやコタツがあり、廊下奥にも椅子を設置し、好きな場所で自由に休んだり、ゆったりとくつろげる場所がある。装飾も華美ではなく、掲示物も季節感が感じられるものや利用者の作品を見やすい高さに掲示している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテンなどが利用者の希望や好みにより持ち込まれている。また、家族との写真や手紙を居室に貼ったり、馴染みの物を置いて、居心地よく過ごせるよう工夫している。		